ALL JA～東京コンテスト 2022

今回も無駄に長くてすいませ～んｆ^_^;

JM1LZT 富山俊一

2020 年の 4 月は、今にして思えば、新型コロナウィルスの感染者数も現在より少なく、それでも未知の疫病に対する恐怖と配慮から、移動しての無線活動は全面的に自粛。ALL JA、東京コンテストともに自宅からの参戦でした。

あれから 2 年。コロナ問題は相変わらず出口が見えず、相対的な感染者数は多いまま。ただ、慣れというのは恐ろしいもので、この 1 年半、個人的には移動運用を平然と(?)やってしまっています。

そんな中迎えた 2022 年のメジャーコンテスト第一弾、ALL JA コンテスト。昨年同様、千葉県鴨川市から参戦してきました。部門は毎度の 50MHz CW。いつも通り金曜深夜に現着し、椅子取りゲームには勝利。都合 3 回目の場所なので、設営等もスムーズな「はず」でした。しかし、油断大敵。昨年後半から導入した 7 エレの設営中、一番やってはいけない「マストのすっぽ抜け」をやってしまいました^^;

不幸にも同じ経験をしてしまったことがある方もいらっしゃるかもしれませんが、「完全すっぽ抜け」、私は初めての経験でした。重量級の 7 エレを 11mh に上げるには、それなりの力を要します。マスト自体が地面に対し、完全に垂直になっていればさほどでもないのですが、水準器を振り回してベースの設定をやっても「完全」はなかなか得られません。どうしても「力まかせ」の場面が出てきてしまいます。今回もまさにその「力まかせ」をやってる真っ最中の出来事でした。思いっきり引き上げてたら突然軽くなり、下のパイプと上のパイプが離れ離れに… ゆっくり倒れ始めた上部を何とか支えようとしましたが、もちろん無理…嗚呼^^;

不幸中の幸いとしては立木に引っかかったおかげで、「完全倒壊」だけは何とか回避出来たものの、2 本ほどエレメントが修復不能なぐらい曲がっちゃいました。

バンザイダイポールの部品ではありません^^;

しばし茫然自失状態ではありましたが、落ち込んでいてもしょうがない。どうにか気を取り直し、本来サブとして使う予定だった 6 エレをメインとすることに決定。もちろん細心の注意を払い、どうにかこうにかフルアップに成功したら最早日没…

サブとして考えた 4 エレ設営は諦め、結局 6 エレ 1 本勝負ということになりました。

ALL JA2022@鴨川

あまりにも予定外のことが起こり、仮眠も取れぬまま本番へ。とりあえずは北～北西にビームを向け、CQ 連発。日付が変わるまでにほぼ昨年並みの 120QSO はこなしましたが、どうしても 1 方向しか狙えないというのはもどかしく、本格的に西に振り始めたのは日付が変わってからに。お約束の静岡は何とかなったものの愛知以西は皆無。もちろん 24 時間の長丁場ですからその時点では焦りはなし。ただ今回のテーマは「とにかくマルチを稼ぐ」だったので、CQ 出しつつも、ワッチも欠かさず、マルチに聞き耳立てまくりだったのは言うまでもありません。

局数を稼げばマルチは自然とついてくる全市全郡とちがい、都道府

県マルチの ALL JA はやはり戦略と状況把握が不可欠。そのためにもアンテナ 2 本体制(7 エレ/6 エレ)で臨みたかったわけですが(昨年は 6 エレ/4 エレ)現実は 1 本に σ^_^;

時期的に E スポは無いとしても、早朝の遠距離伝搬やスキャッターは見逃してはならないチャンスです。あっちゃこっちゃにアンテナを振りまくり、SSB もちょいちょいワッチ。ちなみに、最近コンテスト好きの友人との間で盛り上がっているのが「IC-7610 を使ってデュアルアンテナデュアルワッチってどぉ～よ」というお話し。私の場合、予算的な問題が大半ですが、基本的にリグは何でもいいという方針だったりします(本音を言えば、オペ技術の不足をリグの性能で補いたいわけですが)実際、コンテストで使っているのは FT-891 という「廉価モービル機」f^_^;しかし、最新の技術(SDR)を装備したリグで「完全デュアルワッチ」が出来るとしたら、話は別です。即導入とはいきませんが、今後の課題としては前向きに検討し始めたり始めなかったりしています。

さて、コンテストです。午前 3 時台の束の間の休憩を挟み、後半戦開始(実際は 2/3 ぐらい残ってますが)

期待していた早朝の遠距離交信、マルチ獲得はなかなか上手くいきませんでしたが、日が昇り始めると、QSO も徐々に増加。

日曜の午後にはスキャッター性の伝搬も開けてたと知ったのはコンテスト終了後。アンテナ系統が思うように展開出来なかったとの言い訳はしません。アンテナ 1 本で私より良い結果を手にしている方もいるわけです。つまるところは私の技量不足です。かろうじてマルチだけは昨年を上回れたのが成果といえば成果でした。

後日、提出されたログのナマデータが JARL から公表され、どうやら今回も全国 2 位は届かなかったようです。

難しいからこそ次もやりたくなるコンテスト。当分「卒業」はなさそうです。

—・・・—

ALL JA から約 1 週間、東京コンテストは馴染みの浅間尾根駐車場から。例によって前日の夜中に現着し、奥多摩周遊道路の先頭を確保。朝 7 時ぐらいに目覚め、私のすぐ後ろを確保された、某有名コンテスターの方といつもの朝のごあいさつ。過去ご一緒させていただいた時と同じく、あちらは 28MHz、私は 50MHz と同じ場所での棲み分けです。

奥多摩周遊道路のゲートオープンが 8 時、コンテスト開始が 9 時という、タイトなスケジュールではありますが、経験的には何とかなるはず…でした。実は ALL JA 以降、恥ずかしながら極度の便秘になってしまい、体調がいまひとつ。カラダが重く、力仕事はかなりの頻度で休憩を入れないと出来ません。これにはまいりました。「健康であることが当たり前」という恵まれた日々を過ごしてきましたが、ひょっとすると人生で初めて「カラダが言うことをきかず、やりたいことが思うように出来ない」という事態に^^;

240 の諸兄は、ひょっとすると私より先に同じようなことを感じられているかもしれませんが、若輩者の私もどうやらぼちぼちそういったことをリアルに感じざるを得ない時期に突入してきたようです。

結局、どうにかこうにか 6 エレをあげ切れたのは 10 時半。大遅刻です。大慌てで一通り呼び回りを終え CQ 大会に突入。コンテスト開始から 2 時間ぐらい経ったところで「飽和しかけ」ていたであろう状況なので、とりあえずは呼ばれました。しかし覆水盆に返らず。結局最後まで開始時のロスはカバー出来ず、交信数は昨年の約 8 割、マルチは辛うじて同じぐらいに。あわよくば 2 連覇と思っていましたが、実際は入賞すら危うい結果に。今さらですが、無線のコンテストで勝つためには、ハード、ソフトの充実はもちろん、己が健康という最も基本的なことが実に大切だと再認識させられちゃいました。

あと何年、移動してコンテスト参戦というスタイルを続けるのか(続けられるのか)分かりませんが、そう遠からず「その日」は来るでしょう。自分の健康と体力に傲慢とも言えそうな妙な自信を持っていた私に、今回の一連の出来事は、冷水を浴びせかけるとともに、「次の一手」

を考え始めるきっかけを与えてくれたようにも思います。日々衰えていく自分と上手く付き合い、体力の衰えをカバーするにはどうすればいいのか、きちんと向き合い、行動に反映していこうと思います。

東京コンテスト 2022@浅間尾根駐車場

今回も両コンテストを通じ、多大なご支援をいただいた 240 各局、本当にありがとうございました。

この原稿執筆時点で、6m and down まで 1 週間を切りました。過去 2 年と同じく、私は日光から JA1ZCX/1 の 50MHz のオペとして日光からフル参戦の予定です。SSB、CW ともにオンエアの予定なので、240 のみなさんとの交信、楽しみにしています。

6 月中は体調管理を中心に準備を進めてきましたが、さてどうなることやら σ^_^;